



Title			Client	Used on
<b>LL1582 Evaluation Board / Circuit &amp; Connection</b>			Model	LL1582EVA
Size: A4	Number:	Revision: 273BD	Drawn by	Approved by
Issue:	Revised	Sheet 1 of 1	G.W	

## ■LL1582EVA 基板仕様

- 基板厚み  $t=1.6$ 、外形サイズ 40mm x 70mm、片面基板、半田面レジスト仕上げ、部品面シルク印刷
- 基板取付穴は 30mm x 60mm 間隔(基板外形から 5mm ずつ内側)に 4ヶ所、穴径は  $\phi 3.5$  です。
- 配線材用の穴径は  $\phi 1.5$  です。SH 穴と Case 穴は  $\phi 1.0$  です。

## ■接続参考図について

- 参考としてキャノン・コネクタへの配線を 2 番ホットで示してあります。
- 基板上の SH 穴と Case 穴をメッキ線などでショートすると、1 次側 (Primary) のシールド・ラインを基板の固定用穴 + 金属スペーサを使ってケース (シャーシ) に落とすことができます。
- 基板上の GND Lift 穴をグラウンド・リフト・スイッチに接続しておく、グラウンド・ループなどでノイズが生じるような場合に、2 次側 (Secondary) のシールド・ラインを切り離すことができます。グラウンド・リフト・スイッチが不要の場合はメッキ線などでショートするか、そのままにしてください。

## ■半田付けについて

- 配線材は AWG22 前後のビニル被覆燃線をお勧めします。シールド線は作業効率は落ちますが外来ノイズなどに対して有効です。
- トランスのピンを基板に半田付けする際は、十分な熱容量を持った半田ごてを使い、長時間半田ごてを当てないようにしてください。半田ごてを当てる時間は、1 ピンあたり数秒以内に行ってください。
- 半田付けの際はやけどにご注意ください。

## ■ご使用上の注意

- トランスの巻線には絶対に DC (直流電流) を流さないでください。コアが磁化されてしまい、周波数特性や歪率が大幅に悪化します。トランスの断線を調べるためにテスターの抵抗レンジや導通レンジを使ってはいけません。これらは被測定物に DC を流して測定します。
- グラウンド・リフト・スイッチを取り付けた場合、切り替えた時に大きなショック・ノイズが生じる場合があります。切り替える際はパワー・アンプなどのボリュームを絞ってください。